

大阪釜ヶ崎における単身高齢者の地域居住および 地域資源ネットワークに関する研究

建築計画分野 中村和晶

大阪釜ヶ崎は、戦後日雇労働を求める単身男性が多く住まう「労働者の街」として発展してきたが、労働者の高齢化とともに「生活保護受給者の街」へと変容しつつある。本研究では、釜ヶ崎の支援団体の活動および連携実態、単身高齢者の生活実態を明らかにすることで、単身高齢者の地域居住を可能にする地域資源ネットワークのあり方を考察し、世間一般に問題とされる高齢者の独居生活に対する暮らし方の一つの可能性を模索することを目的とする。高密度かつ多様な地域資源を利用できる釜ヶ崎において、複数の拠点を獲得し幅広い地域資源ネットワークを形成した生活を送ることができれば、対人関係や金銭的なトラブル、入院などによりつながりを喪失し地域社会から孤立するのを防ぐことができ、家族に頼らない地域でのより良い生活が可能になる。

1. 研究背景および目的

釜ヶ崎は戦後日雇労働を求める単身男性が多く住まう「労働者の街」として発展してきたが、労働者の高齢化とともに「生活保護受給者の街」へと変容しつつある。釜ヶ崎を居住の視点から捉えると、アパートなどの居住資源や生活の受け皿となる人的・物的資源が豊富に存在し、高密度かつ多様な地域資源を利用できると言える。中には豊富な地域資源を利用することで三帖一間といった居住資源が持つ狭小性を補いながら地域で幅広い生活を展開する高齢者も存在することから、転用型アパートなどの居住資源と地域に点在する地域資源をつなぐことができれば、単身高齢者の更なる地域居住の促進ができると考えられる。本研究では世間一般に問題とされている高齢者の独居生活に対して、釜ヶ崎で幅広い生活を展開する単身高齢者の生活実態を調査することで、単身高齢者の地域居住を促進する地域資源ネットワークあり方を模索する。

2. 地域資源の定義 (図1)

生活に関するすべてのヒトやモノを地域資源と定義し、さらにアパートなどの居住資源、衣食住に関わる生活関連資源、衣食住以外の生活に関わる病院や公園などの生活準関連資源、人的資源に分類し、現地調査により作成した地域資源の分布を図2に示す。多様な資源が密集しながら混在していることがわかる。

3. 調査概要

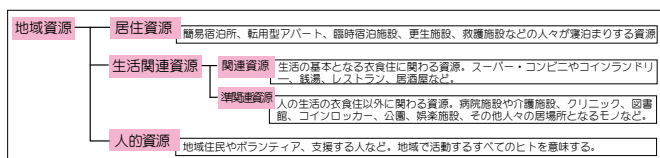


図1 地域資源の定義

まず釜ヶ崎における支援団体の概要および連携実態を把握するため、資料収集および施設へのヒアリング、現地調査による地域資源の現状分析を行った。また施設の運営について西成市民館、事務所むすびにヒアリングを行い、単身高齢者の生活実態を把握するために、アパート共用部や地域施設の利用者12名に対して観察調査および半構造化インタビューを行った。

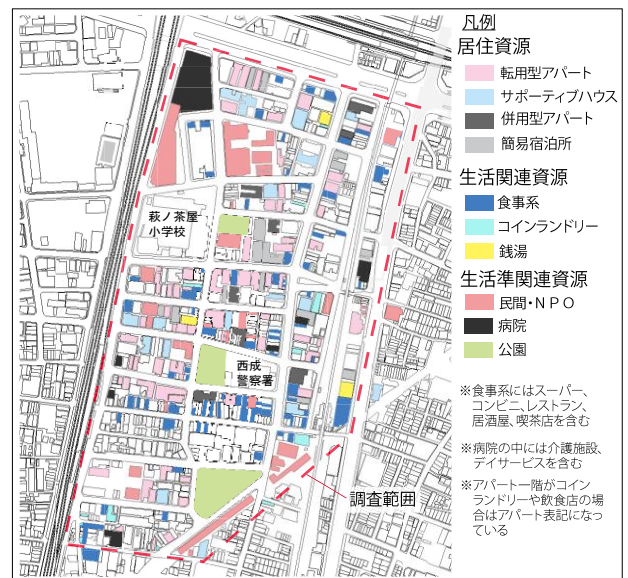


図2 地域資源分布図

表1 調査対象者の概要

仮名	年齢	性別	所得	世帯	住居形態
nb	60	男	生活保護	単身+子供	アパート
rk	60	男	生活保護	単身	アパート
an		男	生活保護	単身	アパート
ok		男	生活保護	単身	アパート
ys	67	男	生活保護	単身	アパート(※)
ms	65	男	年金	単身	アパート(※)
tk		男	生保+年金	単身	アパート(※)
mt	61	男	生保+年金	単身	SH
hn	82	男	生活保護	単身	SH
nk	81	男	生活保護	単身	SH
sn	92	男	生活保護	単身	SH
km	62	男	生活保護	単身	SH
msr	85	男	年金	単身	BH

※サポートハウスではないが共用スペースがある

4. 支援団体の概要

「あいりん地域における地域連携方策検討調査業務報告書」(大阪市)調査報告による分類を以下に示す。

1) 町会系 行政から委託された作業や区全体の事業への参画を行い、特に子どもを考えた環境改善に取り組んでおり、教育といったテーマを通じてまち全体の環境改善を推進することに関心を持っている。

2) ネットワーク系

プラットホーム型 萩之茶屋まちづくり拡大会議では、萩之茶屋小学校周辺の環境整備、萩之茶屋北公園の整備、コミュニティ道路計画、地域の防災・耐震などの地域の環境改善に取り組んでいる。釜ヶ崎のまち再生フォーラムでは、労働者や支援団体スタッフ、簡易宿泊所組合関係者、市民、学者・研究者が集まり、まちづくりや地域の課題についての議論が行われている。

相談・支援ベース 釜ヶ崎キリスト教協友会では、野宿者や日雇労働者を対象として地域の幅広い問題に取り組んでいる。野宿者ネットワークでは、夜回りを行い、野宿生活を余儀なくされている労働者への情報提供、生活相談、労働者の闘争などを支援している。

3) 相談・支援系 労働者や野宿生活者の生活相談・支援を行う。アルコール依存者や高齢者・障害者への対応や、医療、福祉的支援をはじめ物資支援等の生活支援や制度へのアクセス支援など多様な団体が存在する。

4) 社会運動系 地域の諸問題に対して行政責任を求める社会運動または地域課題解決に向けて活動している。主に労働者や野宿生活者の支援を行い、組織の労働組

合も多い。釜ヶ崎炊き出しの会や釜ヶ崎高齢日雇労働者の仕事と権利を勝ち取る会では炊き出しを行っており、労働者の法律相談なども行う組織もある

5) 施設系 地域コミュニティ拠点としての西成市民館や各課題別の受け入れ施設として労働福祉センター、無料低額診療事業を行う大阪社会医療センター、生活保護の初回窓口となる大阪自彊館をはじめ多様な施設が各問題解決に向け重要な役割を果たしている。

6) 事業・雇用系 労働者や野宿者の就労や生活環境の向上を目指して活動する。NPO法人釜ヶ崎支援機構による雇用機会創出活動が地域的に浸透し、高齢者特別清掃事業では、55歳以上の高齢日雇労働者に就労機会を提供している。民間から仕事を開拓する大阪ホームレス就業支援センターや、地域の花屋として定着している花屋BONも就労機会の提供に取り組んでいる。

7) 事業者系 大阪府簡易宿所生活衛生同業組合は地域的特徴を持ち、各団体の連携では欠かせない存在になりつつある。サポーターハウス連絡協議会や釜ヶ崎に観光の視点を見出した大阪インターナショナルゲストハウス地域創出委員会、外国人向けの観光案内を行う新今宮観光インフォメーションセンターなどがある。

8) 文化・アート系、研究系、イベント・企画系 文化・アート系としては、ココルームが地域拠点として定着しており、イベントや講演会情報の広報、喫茶店の運営やアパート管理を行う。研究系では大阪市立大学西成プラザが、地域団体と連携しながら研究を進めており、行政府に対して地域課題解決に向けた提言も行う。

表2 支援団体一覧

	まちづくり・総合	当事者・事業者	住宅	ホームレス	高齢者・障がい者	福祉・介護・医療	労働者・就労	アルコール依存者	教育・子ども	拠点・居場所
町会系	萩ノ茶屋連合女性会 萩ノ茶屋連合				救護会				萩ノ茶屋小学校保護者会	老人憩いの家
ネットワーク系 (町会ベース)	萩ノ茶屋連合振興町会				民生委員・児童委員・保護司会				若草保育園保護者会	
	西成区未来まちづくり推進会議				萩ノ茶屋社会福祉協議会				萩ノ茶屋小学校統合問題協議会	
ネットワーク系 (プラットホーム型)	萩ノ茶屋小学校・今宮中学校まちづくり研究会				萩ノ茶屋ネットワーク委員会				萩ノ茶屋はくくみネット	
	(仮称)萩ノ茶屋まちづくり拡大会議								わが町にしなり子育てネット	
ネットワーク系 (相談・支援ベース)	釜ヶ崎のまち再生フォーラム		釜ヶ崎の在宅生活をささげるネットワーク	野宿者ネットワーク	釜ヶ崎キリスト教協友会					
相談・支援系	さつきつつしの会		旅路の里	さつきつつし会	釜ヶ崎医療連絡会議	居酒屋の館	釜ヶ崎スロームの家		旅路の里	
			ふるさとの家		NPO生活サポート釜ヶ崎	希望の家				
			希望の家		NPO法人 希望					
			いこいの家							
			出余いの家							
			ヨゼフハウス							
社会運動系	公園を守る会		釜ヶ崎炊き出しの会		反戦反失業を闘う釜ヶ崎労働者の会	行動する会 釜ヶ崎			釜ヶ崎解放会館	
					釜ヶ崎高齢日雇労働者の仕事と権利を勝ち取る会					
施設系 (民間/公共)	新今宮文庫		今池平和寮	三徳生活ケアセンター	山王おとなセンター	NPO法人ヘルスサポート大阪	労働組合系		宗教法人カトリック大阪大司教区こどもの里	太子福祉館
			社会福祉協議会 大阪自彊館			バリアフリーつばさ			社会福祉法人 山王こどもセンター	
	西成市民館					社会福祉法人 大阪医療センター	西成労働福祉センター		社会福祉法人 石井記念愛楽園 わかくさ保育園	社会福祉法人 石井記念愛楽園 西成市民館
	ほのぼのクラブ			臨時夜間緊急宿泊所					萩ノ茶屋小・今宮中学校	
						大阪市立東生相談所			今池こどもの家	
事業・雇用系				ホームレス就業支援センター			NPOライフサポート路木		花屋BON	
事業者系	大阪府簡易宿所生活衛生同業組合		NPO法人サポーターハウス連絡協議会							
	大阪インターナショナルゲストハウス地域創出委員会								新今宮観光インフォメーションセンター	
文化・アート系	紙芝居劇むすび			わらわと釜ヶ崎					つきみそうの会	
									新今宮文庫	ココルーム
研究系	釜ヶ崎資料センター									
	大阪市立大学都市研究西成プラザ									
イベント・企画系	投票に行こう！社会再参加キャンペーン		区民スポーツ		あいりん結核検診	釜ヶ崎まつり実行委員会				
	覚醒剤撲滅キャンペーン		連合町会交流会			釜ヶ崎越冬闘争実行委員会				
	市民館祭り		釜ヶ崎研究会			釜ヶ崎まつり				藤波屋/成田屋

5. 連携実態および連携に対する意識

連携実態 相談に訪れた人の関係性を維持するために単独で支援するのではなく、複数で連携して支援している。[1] 必要となる相談・支援内容をもとに、他の支援団体を紹介したり、初回の相談に付き添う組織もある。組織には専門分野があるため、各組織の役割を決めて複数で対応している。[2]組織的なつながりではなく、プラットフォーム型の場に参加したり、普通の業務の中での人的なつながりが連携した支援を可能にしている。[3]連携度合いで見ると町会系と町会系、支援系と支援系、施設系と施設系などの同分類どうしの連携は強く、実際に連携した取り組みが行われている。また施設系と町会系、施設系と支援系といった施設を介した関係性が強いことから、施設を仲介役として支援系と町会系の関係性を作り出せることが考えられる。

連携に対する意識 日常的な見守りとしてケースワーカーと施設の密な連携が必要となるが、ケースワーカー不足のため密な連携を図ることは難しい。[4]利用者の緊急事態に備え、施設に責任を一任する仕組みの必要性を感じており、連携の意欲を示している。[5]

6. 利用者との対応、交流促進の工夫

利用者に依存心をつけないように緊張関係を保つこと[6]、自立心を尊重し、利用者への生活ペースを崩さないための配慮[7]、上下関係を作らないための配慮[8]を心掛けている。また地域住民が自力で問題を解決す

るための段階的な対応[9]や交流促進のためのきっかけ作り、作業依頼をすることで責任感を持たせる対応[10]が行われており、継続的な利用に向けては一緒にレクリエーションに参加したり、定期的に声を掛けるといった密な関わりを意識した対応[11]が行われている。

7. 単身高齢者の交流の実態

声の掛け合い、差し入れ むすびでは日常的な声の掛け合いや差し入れが見られた。体調を気遣いあったり、事務所に顔を出していないメンバーの様子を見に行く行為もみられた。高齢メンバーの食事を気遣い、カレーを部屋まで届けることもある。

金銭の貸し借り 金銭の貸し借りはほぼ見られず、トラブルに発展する可能性があるため、あまり友達を作らない居住者もいる。むすびでも金銭的な会話はできるだけしない。唯一 **mr** が金銭の貸し借りをしたが、お金を返してもらうことは考えておらず、行為と気持ちで返してもらうことが嬉しく、出会いのためなら金銭の授受は受け入れる姿勢をとっている。

交流の重要性 食事が目的ではなく、会話のために居酒屋やレストランに行くこともある。**Hn** は「むすびのメンバーになってから明るくなりました。」と言い、メンバーとの交流や紙芝居公演に生きがいを感じている。**mr** は稼いだお金を人との交流のために使うことから、お金よりも交流を大事にしていることが伺える。

表 3 組織の連携、高齢者の交流実態

<p>[1] 支援の連携 この街で仲のよき単身の方が多くて、なかなか友人に聞かなくて仲のよきのが難しいですね。それはもう関係性を切ってこられてる人が多くて、NPO釜ヶ崎にも生活相談室で仲のよき相談ができる場所がある。ふるさとに相談できる場所がある。市民館に行けば市民館でもできる。市民館の手前のお風呂屋さんの前で受けるのと、市立更生相談所の中にある生活相談室に行っても聞けるとか、支援機構に行っても聞けるとか、医療連に行っても聞けるとか、いろいろなところがある。本人がどこに行ったら聞きやすいとか、今までの関係性があるって、そこに行くとか。組織がつながってるんじゃないって、同じ一人の人を二か所支えるんじゃないって、逆に二か所、三か所支えて役割を決めてやってる場合もある。なかなかこの地域で暮らしている人って仲のよきのは、生活する上で人に頼りたくないって言いながら、やけになってしまつてもあるやろし、いろいろな事情でそうならざるを得ない状況もあるやろし、関係性をずつとつないでいくって仲のよきのは、一か所切れば生活が破たんする場合もありますよ、いろいろなところと連携しながらって感じ。</p>	<p>[9] 利用者への対応 (4)-段階をもった対応 FOR、WITH、BYで言う言葉があるねんね。FORのために、WITHはともに、BYはよって、梯子の段階やねんね。一方的にやるのがFOR、一歩上って一緒にやろうやて、リーダー的な人が出てきたとか、世話焼きのおばちゃんがいるとか、そう仲のよきと一緒にやっていくのがWITH、最終的には住民が住民のなかの問題を解決していくのがBYってゆう感覚です。我々、施設職員はそこになったらずつと抜けていく、フェイドアウトしていく、最初は住民のために、そのあとは住民と一緒にする、そのあとは見守る、援助する。協力するってゆうのが隣保事業の段階やねんね、西成市民館ではそこまできてなくて、今はWITHの段階かな。</p>
<p>[2] 役割の相互補完 医療に関しては社会医療センターを紹介したりとか、市更相を紹介して医療券もらって受診できるようにしたりとか、話す中で体調悪いんやたら病院紹介したりとかする</p>	<p>[10] 利用者への対応 (9)-交流の促進 表でしてはしていないけど、卓球だとかカラオケだとかは目的じゃなくて次のステップのための手段だと思ってるので、他の手段のためにわざと小ネタを持っていったりとか、新聞を置いて、職員が読んでいって、他の誰かがそれに噛み付いて、じゃあもう一つ新聞読ましょとか言うて、職員が抜けた間に話が盛り上がりだるとか、いろいろな形で小細工とかもできるし、あるいはお互い同士とかもまわるとか、これとこれやってくれへんとか、装飾物とか作ってもらったりとかして、カラオケ以外でも頑張れる場があったりとかコミュニケーションとれる場があったりして、つながるとか言うのがあるんで、いろいろな役割とかを持っていったりとか、話せるネタを持っていったりとか、向こうの人が優位に立つっていう言い方はおかしんやけど、お願いして任せられたらというように感じて広がっていくというのがあるんで。</p>
<p>[3] 個人的なつながり 今言われたように年2回まつりをやってるんやけど、実行委員会という形でやってるから、なんやかんやの形で毎月市民館に連れてもらうようになってんねん。それ以外に去年の場合やと、年に4、5回実務者会議というて相談窓口持ってるところが集まって話し合いましていうのがあります。それ以外にも釜すってゆうのを年に6回〜10回くらいやって、それに連れてもらったり、情報を発信したりしているんで、地域とのかわりつうのはそういうのも含まれるんやろかな。日常的なことでゆうたら地域回ったりとか、ほのぼのの通信を月一回ばらまくんで、置きに行くだけじゃなくしゃべったりもするし、相談業務の中で頼んだり、キープアンドテイクもするし、イベントだけじゃなく、相談業務の中とか関わりはあると思うわ。</p>	<p>[11] 利用者への対応 (9)-継続的な利用に向けて それは前提として職員との密な関わりです。いたって単純。知らないところにいれられたらしんやんか。それまでに関係をやっておいて一緒に行きましょとかか、やってくる時に顔出すとか、時には一緒に居るうとか、仲間のなんだという信頼関係のもとにそこに渡すという、一人にしないことです。</p>
<p>[4] ケースワーカーとの連携 行政には病院から連絡がいたらしんですけど、担当のケースワーカーに伝わってなかったらしくて、他のケースワーカーが電話って、それを担当のケースワーカーに伝えるのを忘れてたらしくて、それで担当者が知らないから、こっちがいかに聞いてもらいませんとってことでバニクになってしまつて、本日は次の課題はおちゃんたちとのケースワーカーたちと密に連絡をとれるように普段からコミュニケーションをとっておくことなんだけだ、みんな手一杯で、ややくいことをもちこむなって感じて、相談にいてもあんまりいい感じじゃないんですよ。</p>	<p>[12] 声の掛け合い Nちゃんもな。いろいろなところあるけど、昨日三角公園行ったらな、五、六人。あの人も偉い人や。あのボランティア活動的な、昨日会って最近酒飲みすぎた。・・・ 本心から心配してあげる人って少ないやん。俺らはNちゃんとか古い仲やから、心配する。めやにつけてな、やせ細って。酒飲んでな、また飲みだしたんや。最近また元気がある。そやけど本心から心配する人、うわべだけ心配する人な。・・・ 人のことやら僕もほつていたらいいんやけどな。僕も見てみんふりできない場合があるやん。ほつていたらいいのに、そんなん考えるだけで、自分自身寿命縮めるだけやん。あんまりやってくれることは心からやってくれるか見て、歩いていかんとあかん。</p>
<p>[5] 連携に対する意識 I：おっちゃんたちがなにかあった時に、世話をここに一任しますみたいな文章みたいなのお互い持って、なにかあった時にそれが効力を発揮できるような仕組みが必要なんかな。 N：こないだ話合いに参加したんですけど、今さゆう活動を始めるようになってゆう動きがありますよな。 I：そうなんですか。じゃあそこつながる必要がありますかね。あながい間に入っている人がいいやんやなくて、いなくて。案外つながってないんで、今度聞いてみよかな。</p>	<p>[13] 差し入れ だからおさんなんかに、たまにカレーライスでも作ってあげてやったりな。値段は安くてもいいもんはつくつらんやけど、そこそこ。そうなるって相対的にくわされやうじゃな。こっちがいらんって言っても。どんどん運んでこられるから。さゆうのは嫌やな。うっとうしい。</p>
<p>[6] 利用者への対応 (1)-緊張関係 やっぱりやりすぎないことですかね。二日しか来てないのも他の仕事との兼ね合いもあるのですが、それ以上くるとなんでもかんでもやっちゃうって、おっちゃんたちが依存体制になっちゃって、私がずつとこれるんだつたらいいけれども、人間どうなるかわからないから、最悪私がいなくなっちゃってもおっちゃんたちだけでやっていけるような、依存心をつけないような、自分でやらなきゃいけないような気持ちをつけて、こつと一歩ずつつけて。だいたいやりすぎで、Sさんみたいな人がいるとやっつけていこうなってしまつて、毎日であげられるわけじゃないから、中途半端に来て、中途半端に甘えたいところをつけるのが一番痛手かなと思。緊張関係を保つことですかね。</p>	<p>[14] 金銭の貸し借り もうあかんやうって自分自身やたらあかんやうってわかってたわけや本人はな。わかっててもやめられんわんや。見るに見兼ねてな、ほつと渡して助けてあげた。いつもやたら僕がつぶれてしまうから。できる範囲内や例え5700円もらって食べるのに1000円で2000円足らん時は、私返してくれは絶対言わへんわんや。だめやなと思ったら除で、あげる。非常に喜んでる。さういう時はたぶん人にはできへんけど、少しの人にさうゆう気持ちでやってあげてる。すごい喜んでる。で、その人たちはまた、気持ちでやっつてんねんから、一緒に働くやん。そして、おしいちゃんそんなごっここすらんや、僕らがやっつたるやっつたるや、みんな道具持ってな、取り上げてやってくれるやん。そやからやっぱり人間関係のうかな、西成とのつながりっていうかな。すごいところがあるで。すごいつながりがある。帯で揃いでもなような仕事、楽な仕事って。一番年配者やうな、みんな5歳以上やたらかなの60歳っていったらまだ若いやろ。その人が助けてくれる。さうゆうの酒二本買えるやんって言って、西成の人はさうゆうの喜ぶや。それで一緒に飲むわ。それやたら200円ですむわ。すむわっていったらおかしんやけど。そしたら会話ができるやん。</p>
<p>[7] 利用者への対応 (2)-自立を促す対応 みんな自立してはるしね。自立して生活してやるペースを崩さないように、そこまでお世話できるんらしいけど、できないことは中途半端にしないことですかね。Sさんでも自分でコーヒー入れてね。「自分のことは自分でしよ」って言ってるからな。</p>	<p>[15] 会話の重要性 ずつとこの4年間、向こうのにぎりを食ってるでしよ。そしたら飽きてくる。飽きてきてるけど、やっぱり味もあるけど、会話もできる。はいマグローってか言つて。会話ができるでしよ。それもあ。</p>
<p>[8] 利用者への対応 (3)-対等な関係 やってもらってゆう変な立場の関係も作りたくないで、お互い対等で、お世話してもらってゆう、なんかさうゆう上下関係できるのは良くないし、これはサポートするさうところではないので、自分でやってさうゆう気持ちになるべくつくさうように。</p>	<p>[16] 会話の重要性 わかるように今でも働いてるやん。そのお金でゆうのは僕別にそんないらんわ。いらんやん。ほんだらさき言たように大きなお金じゃないけど、隠れた出会いがあって、隠れた出会いと一緒にこれ飲んで、10円でもな。これ飲んで。さうゆう気持ちが大事や。そやからさうゆうとこにお金使ってる。それかいうてたや。三角公園でホームレスと一緒に酒飲んだり。こうきてな。一緒に飲んで。何万円もするもんやうやん。酒持ってって、こなんええ酒ええわ。100円のやつでええわってさうやん。ほんだら230円も使うやんやたら100円の酒二本買えるやんって言って、西成の人はさうゆうの喜ぶや。それで一緒に飲むわ。それやたら200円ですむわ。すむわっていったらおかしんやけど。そしたら会話ができるやん。</p>

8. 単身高齢者の生活特性からみた分類(図3)

少数拠点型 滞在時間と利用頻度に偏りがあり、居室以外に一つか二つ程度の拠点をもち、少数の生活拠点の他には、スーパーやコインランドリーなどの生活に欠かせない施設の利用だけにとどまっている。アパート一体型や併設型の拠点をもち、施設、アパートスタッフを中心とした深く狭い人間関係を構築している。

複数拠点ネットワーク型 滞在時間と利用頻度がバランスよく分布している。アパート以外に生活の拠点をもち、そこでの人間関係を中心とした、人間関係を構築している。仕事やイベントを中心とした生活周期をもち、地域のイベントや講演会、ふれあい喫茶、バザーなどに参加する。自主的にボランティア活動に取り組んだり、表現の場を好む人が多いのが特徴である。

資源通過型(散歩型) 各拠点の滞在時間は少なく、利用頻度が多い。あまり深い交流は見られず、あいさつ程度の薄く広い人間関係を構築している。

9. 単身高齢者の地域資源相関図(表4)

観察調査およびヒアリング調査結果をもとに、単身高齢者を取り巻く地域資源相関図を作製し、地域資源と調査対象者の関係、行動の広がりについて考察する。アパートおよび居室を中心として領域を①施設系、文化・アート系、イベント・企画系、②生活の場、③相

談・支援系、事業雇用系④その他に整理し、利用頻度を線の太さ、滞在時間を円の大きさに表す。(図4)

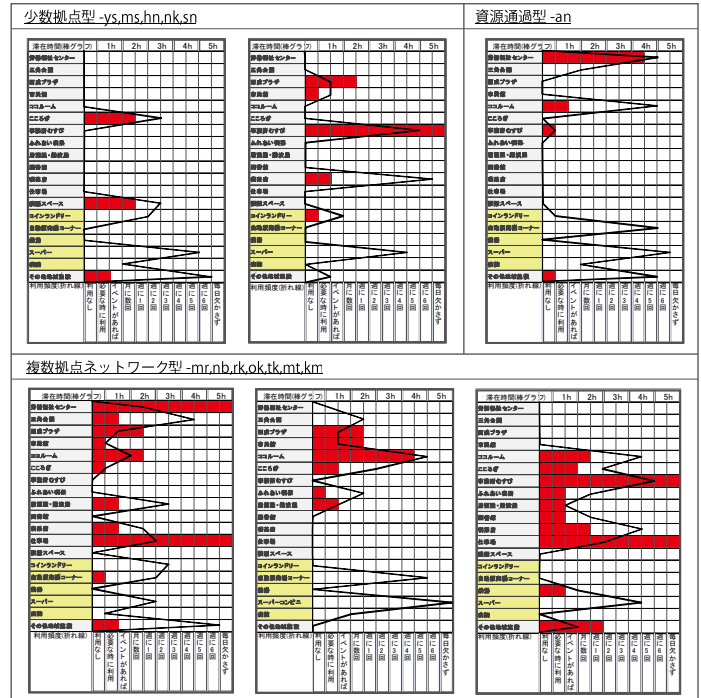


図3 生活特性からみた分類

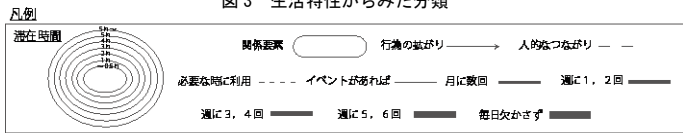
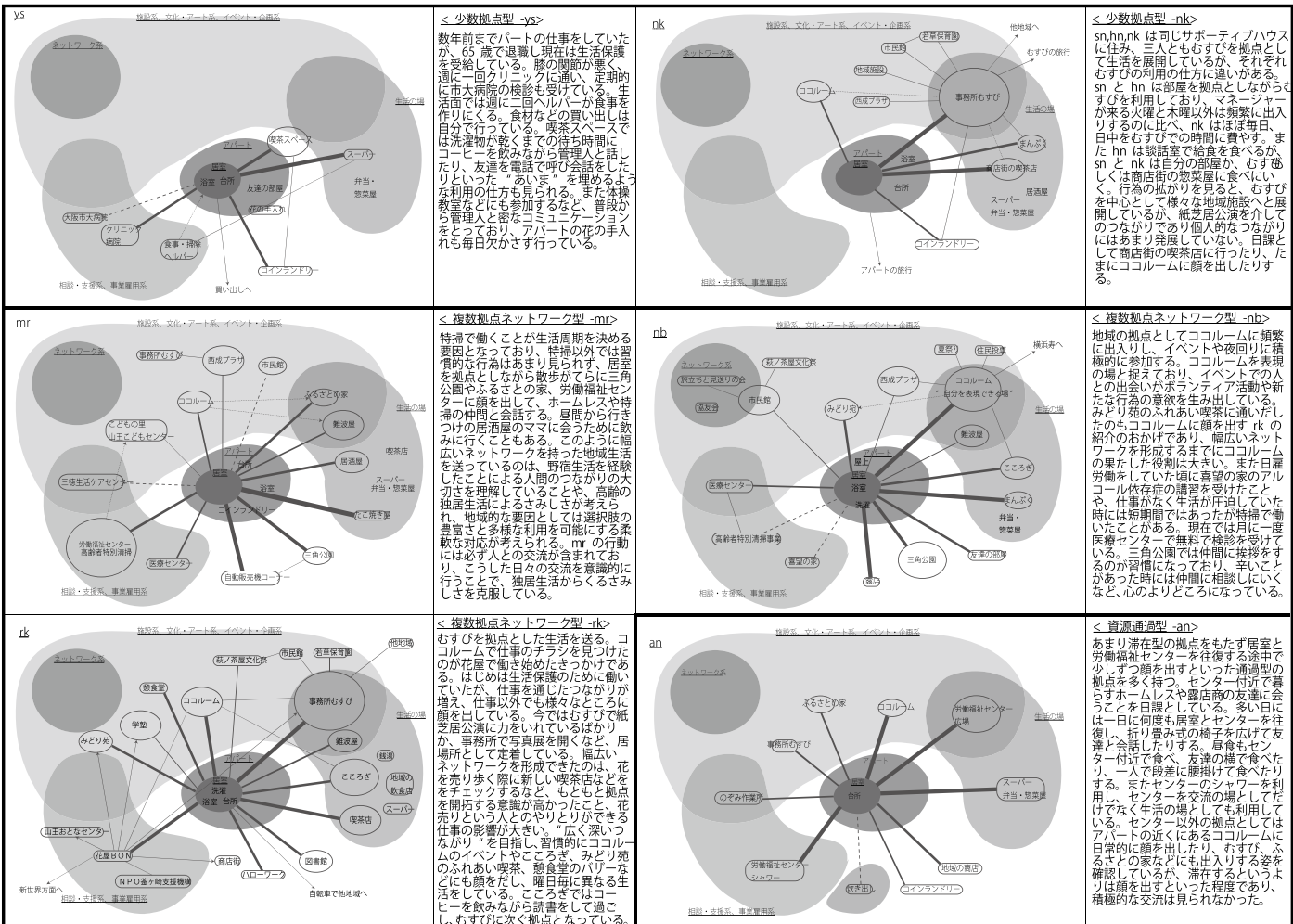


図4 地域資源相関図凡例

表4 生活分類別地域資源相関図



10. 共用空間の有効性(図 5)

共用空間はアパート内包型、アパター一体型、アパート併設型の3つのタイプに分類することができる。

アパター一体型 アパートと外部空間の両方からアクセス可能な共用空間。一体型では、内部と外部をつなぐ動線上に共有空間があることで“あいま”を埋めるような利用がなされていたり、通りがかった人との交流に発展し、他のアパートで暮らす知り合いとの関係の継続の場としても有効であることがわかった。

アパート併設型 アパート外にアパートとつながりをもつ共用空間がある。併設型では、内包型では起こり得ない他の居住者との交流の場として機能したり、地域で活動する支援団体のスタッフとの交流であったり、他ではあまり見られないような行為が見られた。プラットホーム型のような集まりではなく、地域居住者も加わった新たな交流の場として期待できる。

11. たまり場空間の有効性

連絡手段を持たない高齢者は、転居や入院によりつながりを喪失し、独居生活を送るケースがある。しかし、センターのようなたまり場を利用することで人間関係を持続させることができる。と言っても、単にたまり場となる空間があれば良いという訳ではなく、利用に至るきっかけは必要である。an は友達がいること、mr は仕事がセンターを利用する理由になっていた。そこに生活に必要な機能や、長時間滞在可能なプログラムを持たせることができれば、更なる利用の向上につながり、“意味をもった”たまり場を形成できる。

12. 行為・交流展開の可能性(図 6)

case-A や case-B、case-C では場所が生活の変化に影響を与えている。case-A では、行動範囲の拡大・ボランティア活動への参加に発展するだけでなく、禁酒に成功するなど気持ちの変化も起こっている。case-B では、仕事のチラシを見つけたことが生活展開のきっかけとなっている。case-C では、喫茶スペースの存在がアパート内での人間関係の拡がりに貢献しており、お裾分けなどの行為へと派生している。case-D と case-E、case-F2 ではヒトとの出会いが生活の変化に影響を与えている。case-D では、居住者 A と自分の姿と重ね合わせ、自分も仲間に見送られたいといった気持ちが芽生え、ボランティア活動に参加するようになる。case-E では、メンバーA の声掛けによる影響が大きい。「コーヒーでも飲んでいきや」といった何げない一言が、メンバーとなるきっかけを与えたばかりか、mt がメンバーに入ったことで日常的なメンバー同士の見守りや緊急時の行政や民間ではできない対応が可能となった。今度は mt が「まあコーヒーでも飲んでいってくださいよ」と声を掛けている。case-F2 では、AS との出会いがボランティア活動の自発的な行為へ

と発展している。AS に声を掛けられて講演会にスピーカーとして参加したり、一緒にこどもの相手をするボランティアをすることで、学生やこどもとの触れ合いができ、mr の思い出として心の支えになっている。

13. 居場所の分類と位置づけ

施設(NPO、民間施設) 居場所を提供したり無料でレクリエーションを開催するボランティアな取り組みをしている。施設での活動を通じた社会参加によって“何かしたい”といった願望を満たすタイプが多いが、しかたなく利用する人も存在する。前者にとってはお金を払わなくてもイベントに参加でき居座れる施設は、“自己実現の場”として生活にメリハリを与えているが、後者にとっては、レクリエーションに参加するだけの“受動的な場”となっている。施設では時間的な

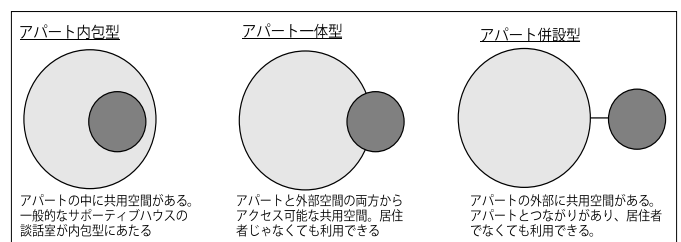


図 5 共用空間の分類

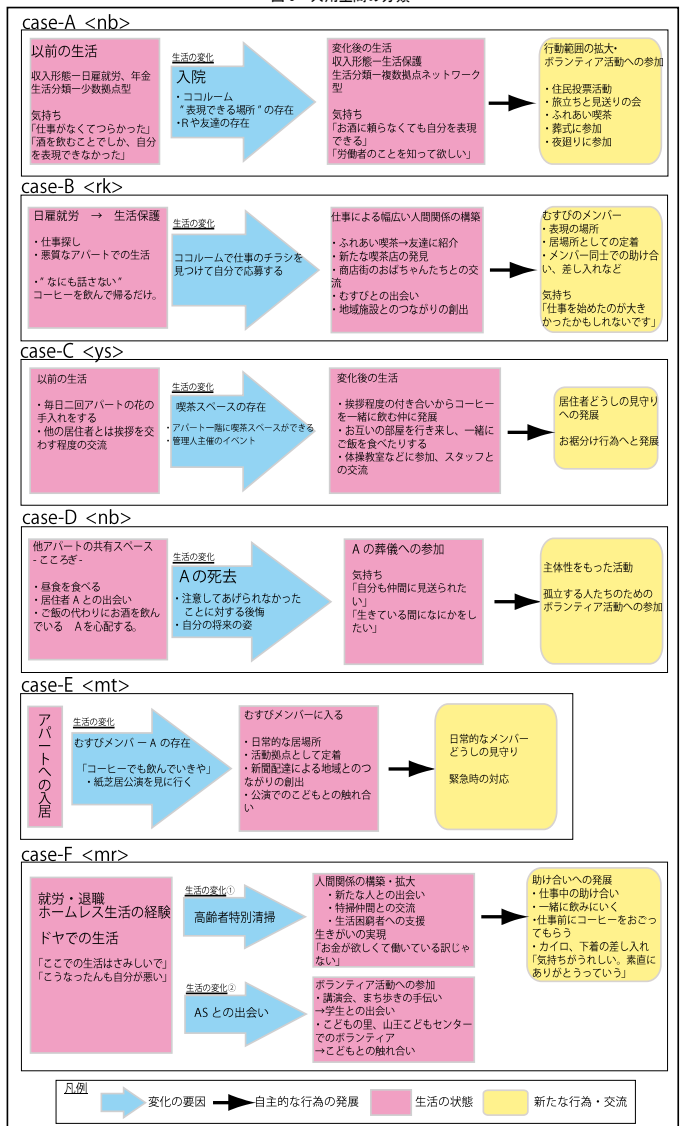


図 6 行為・交流展開の可能性

制約や、お酒を飲んでいる人は利用できないといったルールが存在し、秩序が保たれているため安定した人間関係を求める人は施設に依存しがちであるが、束縛や干渉を好まない人はあまり利用しない。

飲食店 食事目的ではなく人づきあいを目的とするタイプが多い。利用にはお金が必要になるが、それ以上に居酒屋のママや喫茶店のマスターとの関係を大切にしており、行きつけの飲食店をもつことがステータスにつながると考えている人もいる。またアパートの友達やその他の知人を連れていく場所でもあり、“人間関係を深める場”であると言える。飲食店では、金銭的な負担は発生するが、施設のように時間的な制約や規律が存在するわけではなく、お金を払ってでも“会話を楽しむ場”として機能していることがわかった。

公共のたまり場 野宿生活や日雇労働者時代に築いた繋がりを継続させている人が多い。野宿生活時代の友達に会いに行ったり、単身高齢の独り暮らしからくるさみしさをまぎらわすためや、辛いことがあった時に仲間に相談できる場として機能している。釜ヶ崎特有の仲間意識が引き起こすゆるいつながりが一番有効に作用する場所であるが、釜ヶ崎であまりつながりを持っていない人や、施設のような秩序のある空間を好む人にとっては安心できず、利用しにくい場でもある。

アパート共用空間 動線上に共用空間がある場合には、“あいま”や“ついで”利用がなされ、友達との交流や長時間の利用に繋がっている。スタッフとの交流が

中心となり、テレビや新聞、最近行った場所の話をしたり、亡くなった後の世話の話をするなど、積極的な利用には至っていないが、日常的な挨拶や会話を通して、スタッフと密接な関係を築いている。

14. 結論

釜ヶ崎の単身高齢者は野宿生活や日雇労働者時代に構築したつながりを維持、発展させながら生活しているケースと他地域で生活し病院や救護施設から釜ヶ崎のアパートに入居し生活を始めたケースがある。前者は地域施設などの秩序が保たれた資源の他、飲食店などの金銭的な負担はあるが決まった人と会話できる場所、公園などの制約をうけない空間を場合にに応じて使い分けている。後者では、地域施設やアパート共用空間などの秩序が保たれた空間や喫茶店、居酒屋といったある程度の秩序が確保されている空間を好んで利用している。居場所がそれぞれ異なる役割を果たすことで、単身高齢者が自分の性格や生活ペースに合わせて居場所を取捨選択し、時と場合に応じた使い分けがなされている。つまり、役割の異なる居場所の存在が個々の生活の違いを生みだし、居場所をつなぐ人的ネットワークが複層的に作用することで、居場所の多様化や選択が可能になり、結果として自主性に溢れた個々の生活の変化を生みだしている。単身高齢者の地域居住において、地域に存在する資源を活かしながら多様な居場所を形成し、居場所をつなぐネットワークによって生活に選択性を持たせることが重要であると言える。

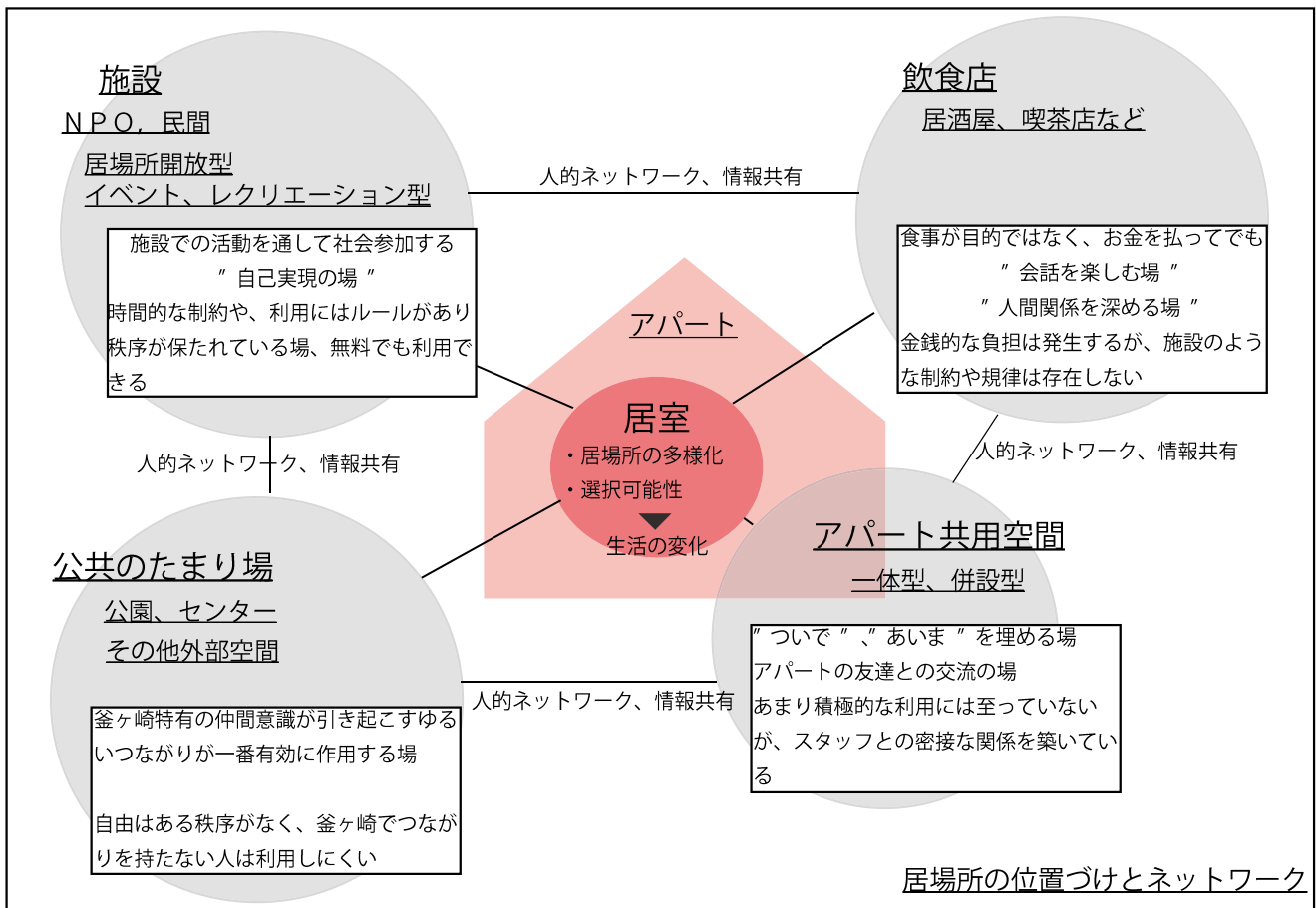


図 7 資源ネットワーク概念図

討 議 等

◆討議 [嘉名先生]

なんでここまで調べられているのに、こんな結論になるのかが残念。チャート見ると空間とサービス、施設、それから居場所みたいな話をごちゃごちゃになってる気がする。本当は居場所になるとか、自分の場所になる重要性が言いたいんですよね。なのに施設とかサービスに置き換えて話してるから本当に伝えたいことが伝わってないんじゃないかな。もしなにか伝えたいことがあれば

◆回答：釜ヶ崎で暮らす単身高齢者の前提として、野宿生活や日雇い労働者時代に築いたつながりを維持・発展させながら現在の生活を送っているケースと他地域で生活を送り病院や救護施設から釜ヶ崎のアパートに入居したケースがあります。前者は地域施設などの秩序が保たれた資源の他に、居酒屋や喫茶店などの金銭的な負担はあるが決まった人と会話できる場所、公園などの金銭的にも秩序的にも制約を受けない自由な空間を場合にに応じて使い分けています。後者は、地域施設やアパート共用空間などの秩序が保たれた空間や喫茶店、居酒屋といった飲食店などのある程度の秩序が保証されている空間を好んで利用しています。釜ヶ崎には、お金を払わなくてもイベントに参加できたり居座ることができる施設や、居酒屋や喫茶店などの飲食店、公園やセンターみたいな公共のたまり場、アパートなどの公共空間といった単身高齢者が居場所として使える空間が混在しています。それぞれの居場所の役割が異なっていることで、個人個人の生活の違いが生み出されていて、それぞれの居場所をつなぐ人的なネットワークが複層的に作用することで、居場所の多様化や選択が可能になり、結果として自主性に溢れた個々の生活の変化が生み出されています。

◆討議 [宮本先生]

嘉名先生が言っていることに尽きると思いますが、あいりん地域ではすごく立体的な重層性のあるネットワークがあるらしい。そこまでは伝わってくる。立体的にやっているものを一枚一枚はがして、レイヤー別に見せてくれるとわかりやすい。

◆回答：あいりん地域(釜ヶ崎)では人的ネットワークであったり、情報共有のネットワーク、施策的なネットワーク、利用者のネットワークであったりと様々なネットワークが存在しています。それぞれのネットワ

ークが単独で効果を発揮しているのではなく、複層的に作用することで、単身高齢者の自主性をもった生活が成り立っていることを言いたくて、それらを統合した図を用いて説明しました。レイヤー別にはがして説明できれば、より具体的な話まで持っていったかと思えます。

◆討議 [倉方先生]

事象を切り取って複雑な要素をなるべく簡潔に深くかくってゆうのが図だから、これは色んな事例と一緒になくなってしまってるし、必然的な形じゃないといけないんですね。すごいやっているとします。

◆回答：宮本先生にも言われた通り、事例やレイヤー別に分けた説明ができれば、それぞれのネットワークのもつ意味や重要性が説明できたかと思えます。

◆討議 [吉田先生]

地域資源ネットワークって書いてありますけど、図の中にどうゆう要素を盛り込んでいくと、そういうことを表現できるようになると思えますか。

◆回答：地域資源のネットワーク(ここでは居場所と呼ばせて頂きます)の形成要因となるのは人的なつながりや情報共有によるつながりが大きく影響しています。空間以外の人や情報といったことに着目して、どのようなネットワークが機能しているのかを具体的に図に書き込むことができれば、私が伝えたいネットワークの複層性を表現できるようになると思えます。

◆討議 [吉田先生]

地域資源のネットワークの中に空間以外のもので、さっきちょっと話の中にあっただよように人的なネットワークとかを、この図の中にうまく表現する方法ができたら立体的に見えるんじゃないかって示唆だったんで、それに取り組んでもらいたいです。